



共に生きるための価値観を育む

地域社会の多文化・多民族化が進行し、さまざまな違いを持つ人が同じ空間の中で生活することが当たり前となる中、「共生」の模索が重要な課題となっています。しかし、民族・文化・信仰等の違いは、価値観や行動規範の違いと深く関連しているため、戸惑い・摩擦・対立といったネガティブな反応を生み出しやすく、欧米等の移民排斥運動や日本国内のヘイトスピーチに見られるように、「共生」を歓迎しない人も多い現状があります。そのような状況にあっても、お互いの違いを尊重しつつ、協同を目指すことで「共生」を模索していくことが求められています。

保育・教育の場も、多様な人々が共に暮らす場であり、さまざまな価値観が錯綜する場でもあります。保育・教育の場で子どもたちが会える価値観は、それが顕在化されたものであっても、顕在化されにくいものであっても、子どもたち自身の価値を形成し、それが将来の社会の在り方に繋がっていきます。同質な

者しか認めない価値観、競争と自己責任論を容認し、勝ち組になることを求める価値観が支配する場で子どもたちが育つことは、将来の社会が、異質なものを排除する社会、自己責任論に支配された社会になることに繋がります。反対に、多様性を認め合い、共に生きるための方法を模索しようとする価値観が大切にされた場で子どもたちが育つことは、多様な人たちが共に暮らす真の共生社会に繋がります。

ある園の4歳児クラスで出会った渡日1か月足らずのAちゃん。転入当初、日本語が全く分からず、不安な表情で保育者の傍を離れることができませんでした。私が園を訪問した際、Aちゃんは、同じクラスのBちゃんとの応答的な関係の中で安心して遊んでいました。印象的だったのが、Bちゃんが、Aちゃんとの関わりにおいて、目線を合わせる、手に触れる、身振り手振りで伝える、などの非言語的コミュニケーションを多用していたこと。Aちゃんとの出会いの中でBちゃんは、お互いが分か

り合える方法に気づき、実践していました。「共生」という価値観が大切にされる園の雰囲気の中、子どもたちは、共に生きるため力を育み、多様な人が共に暮らすことができる社会の担い手として育ち始めていました。

混迷を深める現代であるからこそ、私たちがどのような価値観を子どもたちに届けていくかが問われています。こうした時代だからこそ、YMCAが大切にしてきた価値観を見つめなおし、その意義を再確認することが求められているのではないのでしょうか。



常磐会短期大学幼児教育科
教授
社会福祉法人大阪YMCA
評議員

しめだ しんいちろう
ト田 真一郎

■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人のびとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み、平和で公正な世界をめざします。

ユース事業部(公益財団法人)

YMCAの魅力

ユース事業部 土佐堀YMCA ^{さかい ゆうな} 坂井 祐菜

土佐堀YMCAウエルネスセンターでは、未就園児から高齢者まで幅広い年齢の方が、喜びと生きがいを感じながら楽しんで身体を動かしています。さて、いよいよ新年度を迎える4月は、新しい門出となる一歩を踏み出す方も多いのではないのでしょうか。そこで、新しい環境で挑戦したいことや、学年が上がってお兄ちゃん・お姉ちゃんになって始めたいこと、目標について、保護者や子どもたちに聞いてみました。

幼児体育クラスの保護者から最も多かったのは、「スポーツ(体操・サッカー・バスケットボール)を頑張してほしい」という声です。子ども自身からは、「勉強」「英語をがんばりたい」の声が多く、小学校生活への憧れや希望を感じました。小学生バスケットボールクラスでは、「勉強とバスケットボールの両立」という意見が多く、将来海外やいろんなチームでプレーしていけるように「英語は必要」という意見や、強豪校に入るために勉強も頑張りたいなど、保護者も子どもも同じような熱量で目標に向かっていくことを感じます。

YMCAは、地域のニーズを捉え、全人格の形成に努める活動を展開しています。今回実施したインタビューの中でも、子どもたちがリーダー

へ進路について相談するだけでなく、保護者が子どもの将来や進路のことを担当リーダーへ相談しにいらっしやいました。それは、日頃から子どもの心の動きに寄り添って、スポーツに寄っての想いや将来の夢などを語り合い、共感・共有しているリーダーとの様子を見て、保護者も信頼や安心を感じていただいているからではないでしょうか。

スポーツを始めたいと思ったきっかけやその種目に対する熱意は十人十色ですが、悔しさや喜びを共感し合う仲間やリーダーが隣にいることは、YMCA活動の魅力でもあります。子どもたちが抱える悩みに寄り添いながら、スキルの向上(認知能力)だけではなく、社会性や協調性、想像力など生きていくために必要な力(非認知能力)の育みも継続的に行っていきます。



インタビュー 百寿おめでとうございます！

2023年11月に100歳を迎え、現在も土佐堀YMCAウエルネス会員としてヨガクラスに参加されている原田 隆司さん(1923年生まれ)は、92歳から土佐堀YMCAのヨガ教室を受講されています。当時、両手を上げる際に呼吸が苦しい状態だったそうですが、ヨガに通うようになってからすっかり体調も良くなり、元気になりました。普段の生活の様子などをスタッフの川良よりお伺いしました。



川 良 原田さん、百寿おめでとうございます！普段の生活では、どんなことを意識して過ごされていますか？
原田さん 78歳で花の独身生活になって、家事などわずらしいこともやらなかつたと思わずに、「まあ、ちょっとええ加減でもいいか」と楽しみながら過ごしています。

川 良 日々楽しんでいる趣味はありますか？
原田さん 俳句を20年くらいやっています。『コーヒーの 湯気ほのぼのと 冬の朝』が特選で入選しました。それから、テレビで手話を勉強しています！始めて1年ちょっとです。

何事も意欲的に取り組んでいる原田さんです。いつまでもお元気で！

ユース事業部(学校法人)

デンマーク・エクスチェンジ・プログラム

大阪YMCA国際専門学校 高等課程 国際学科 学科長 ^{にしむら まい} 西村 麻衣

国際学科(IHS)の2年生は12月2日(土)から16日(土)まで、デンマークへ修学旅行に行きました。デンマークには、高校に上がる前の一年間、親元を離れて「自分は将来何をしたいか」を考える、エフタスコレという学校があります。IHS卒業生の水谷 朋実さんが、デンマークの教育システムに魅かれてEIS校(エフタスコレの1つ)の職員として働き始めたことをきっかけに、IHSとの交流が始まりました。教育水準や国民の幸福度が高いデンマークでの活動が、生徒たちの将来を考える上で大切な経験になると考え、修学旅行として位置付けています。

毎年、その学年に合ったテーマを設定し、文化交流だけでなく探究活動も共に行います。今年のテーマは「life with AI」。デンマークでは、ゴミの焼却熱を各家庭の暖房につなげる施設や年金機構を訪問し、

焼却設備のメンテナンスや年金のカスタマーサービスにAIを活用している現場を見学しました。最終的には10テーマ10グループに分かれて研究発表を行い、AIを活用した未来について意見を共有しました。デンマーク訪問はIHSで学んできた英語

を積極的に活用する機会でもあります。1年生から磨いてきた実践的な英語力を使い、滞在期間中は積極的に英語を話す姿が見られました。1人ずつ自分のパディー(パートナー)と共に行動し、ホームステイではご家族とも英語で交流を深めました。どのご家庭も温かくIHS生を迎え、別れの時に涙するほど大切にしてくださいました。

日本の文化を伝えたカルチャーナイトも大盛況でした。関西のクイズや、東日本大震災のことを伝えて「花は咲く」を合唱する等、どうやって日本を伝えるか知恵を出し合いました。準備を通して、学年としても集団の力が深まり、お互いの課題や悩みも受け止め合えるようになりました。

1月末にはEISの生徒たちが2週間IHSを訪れ、日本でもHCI ROBO HOUSEやナレッジキャピタルを訪問し、AIをどう社会課題に活用するかについて考える時間を持ちました。学びの集大成として、デンマーク王国大使館の後援をいただいた学習発表会を実施し、在大阪デンマーク王国名誉領事代理の方々も生徒たちの発表を見に来てくださいました。これらエクスチェンジの経験が、一人ひとりの生きる力を育むことを信じています。



社会福祉事業部

YMCAあわぎ保育園 分園を開園します!!

「子どもが輝き、保護者が輝き、地域の人々が輝き、スタッフが輝く保育園」であるために

YMCAあわぎ保育園 園長 ^{おばた はなえ} 小島 英恵

0~2歳の子どもたちが通うYMCAあわぎ保育園は、2024年4月、大阪市西区江戸堀3丁目に分園を開園することになりました。これまでYMCAあわぎ保育園は2歳児までの保育でしたが、地域の方々から「3歳児以降の保育園はどうしたらいい?」「YMCAの保育園でこのまま小学校就学前まで保育をお願いしたい」と、たくさん声をいただいていた。いよいよ4月からは5歳児までの定員40名の子どもたちとそのご家族の受け入れが可能となります。

一人ひとりを大切に育むYMCAの保育園として、安心の育ちの場を地域に作り出し、幸せを作り出せるYMCAでありたいと願います。地域の方々にとって「ぜひ入園したい」、保育士の方々にとって「YMCAで働きたい」と希望を持てる環境を提供し続けることができるように、皆で取り組んでまいります。



3月16日(土)11時15分~12時15分に内覧会を行います。ぜひお立ち寄りください。

所在地：大阪市西区江戸堀3-6-49 江戸堀やまぐち ANNEX2階201 (土佐堀通り沿い、土佐堀3丁目バス停よりすぐ)

お問合せ：06-6479-0701 (YMCAあわぎ保育園 小島)

YMCAストーリー

大阪北北ワイズメンズクラブ VISION150委員 ^{なかい まさひろ} 中井 正博

1972年頃、母の知人の紹介で土曜日午後の堺YMCAのサッカースクールに通い始めたのが私のYMCAストーリーの始まりです。あまり丈夫ではなく、運動が苦手だった私にとって週1回のサッカーはなかなかきつかったですが、リーダーや校外の友達との出会いが今に至る活動の原点になっています。大学生の頃にユースボランティアリーダーとして関わっていた4年間は、本当に楽しかったです。また、大阪YMCAのスタッフとして働くようになってからは、日々が学びの場であったように思います。いろいろな立場で物事を考え、判断していくことは、YMCAを退職した後の今の仕事にも非常に活かされています。

VISION150の「~あなたとわたしの幸せが共に実現できる社会をめざして~」この言葉を実行するため、もっともっと楽しいこと、幸せになれることを考えていきたいと思っています。

ユースボランティアリーダーOG ^{じんぼ みほこ} 神保 美保子

2022年度までユースボランティアリーダーとして、野外活動を行っていました。初めは、小さな生き物すら触れませんでした。子どもたちがきらきらとした瞳で、「リーダーこのカマキリの目見て！かわいい！」と話す姿を見て、自然や生き物が大好きになりました。子ども達は、大人よりも五感が優れており、大人が気づかない発見をします。「子どもと同じ目線で楽しむこと」「楽しむための視点を持って関わること」の重要性を知りました。これは、現在小学校教諭として子どもと関わる際にも、大切にしています。支え合い、励まし合い、挑戦を後押ししてくれる仲間、興味や視野を広げてくれる環境、共に成長させてくれる子ども達と出会ってくれたYMCAに感謝しています。

現在も、VISION150にユース代表として関わらせていただいています。VISION150を作り上げていく中で、YMCAは、多くの人の語らいの場であり、居場所となっていることを改めて実感しました。また、様々な年代の人たちが様々な分野で活躍されていることを知り、社会人になった今でも、新たな出会いと刺激をもらえました。これからも、ここで出会ったつながりが途切れることなく、YMCAを通して、たくさんの人の輪が広がっていくことを願っています。YMCAと共に私自身も成長していきたいです。



チャリティーラン2019では、実行委員長を務められました。



能登半島地震YMCA緊急支援活動報告・募金のお願い

2024年1月1日に発生した、石川県能登半島を震源とする地震や津波により被災された全ての方々に、心よりお見舞い申し上げます。

YMCAは、1月8日から内閣府およびJVOAD(全国災害ボランティア支援団体ネットワーク)からの要請を受け、石川県が「いしかわ総合スポーツセンター」(金沢市)に設置した1.5次避難所に全国のYMCAからスタッフを派遣しています。「1.5次避難所」とは、高齢者や障がいのある方、妊婦、乳児など特に配慮が必要な方々を、ホテルなどの「2次避難所」に移ることができるまで受け入れるもので、YMCAは熊本地震や東日本大震災などで避難所運営に携わってきた経験をもとに、運営のアドバイスを行っています。大阪YMCAからは職員の山根 一毅さんが派遣されました。

また、大阪YMCAではJR大阪駅前や南海堺東駅前などで街頭募金活動も行いました。

今後は避難所支援の他、富山YMCAを中心に、過去の災害時に実施した子どものリフレッシュプログラムや、シニア向けのカフェ、健康体操なども提供できるよう、全国のYMCAと協働しながら支援を進めてまいります。



金沢市の1.5次避難所に山根スタッフが運営アドバイザーとして派遣されました。

支援活動については随時、
ホームページでお知らせしてまいります。



日本YMCA同盟



大阪YMCA

能登半島地震YMCA緊急支援募金2024 ご協力をお願い

第1次募金期間：2024年3月31日まで

募金使途 ・被災地近隣YMCAと協働して行う、能登半島地震の被害を受けた地域への支援活動
・YMCAが関係する災害支援団体との協働で行う支援活動

募金方法 各YMCAの窓口へ直接お持ちいただくか、以下の方法でお手続きをお願いいたします。

- ①銀行振込：三菱UFJ銀行 大阪為替集中店(オオサカカワセシユウチュウテン)
普通預金 No.0230040
公益財団法人大阪YMCA カナ：ザイ)オオサカイムシーエ
- ②郵貯振替：00980-0-11933 公益財団法人大阪YMCA
郵貯振替の場合はお名前その後や備考欄に「2024能登地震」とご記載ください。
- ③クレジットカード：大阪YMCAホームページ寄付フォームサイト ⇒⇒⇒⇒

※寄付金領収証が必要な方は、下記の大阪YMCA本部事務局へご連絡ください。

公益財団法人大阪YMCA 本部事務局
TEL：06-6441-0894 E-mail：info@osakaymca.org



大きな声で募金を呼びかけました。



株式会社テツタニ様より支援金をいただきました。

ご寄付に感謝申し上げます

株式会社カナオカ機材様より大阪YMCAの活動へのご寄付をいただきました。ご支援に心より感謝申し上げます。



会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2024年1月度報告・敬称略

【新規会員】

赤岸 達哉
岩谷 望生
大脇 慶久
小濱 塔子
近藤 祐実
田中 ゆうな
西尾 虎次郎
古川 葵
松本 理央
宮城 帆乃加
宮本 麗奈
元木 侑実
森野 涼果

山田 ひかり
山本 月波
河田 竜典

【継続会員】

足立 智哉
井関 美潮
大野 真由美
北尾 千夏
葛島 経生
櫻井 彩乃
下藤 聖也
神社 洋一
神保 真理恵

中井 正博
那須 遥佳
堀田 寛人
松本 祐香史

【新規賛助会員】

医療法人妻鹿整形外科

【継続賛助会員】

紀伊産業株式会社
株式会社創元社
株式会社田邊空気機械製作所
朝陽電気株式会社

宮前 瞳
三好 紗矢
山崎 太詩
湯浅 禎也

インフォメーション

早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAの様々な場で活動されている方々にお話しをいただき、人生の歩みを分かち合う恵みの時としています。

第359回

日時：2024年3月15日(金) 7:30~8:30

証し：貝 容子さん(大阪YMCA本部事務局 スタッフ)

場所：大阪YMCA会館 10階 チャペル(大阪市西区土佐堀1-5-6)

※中止の場合は大阪YMCAホームページ「NEWS 新着情報」でお知らせいたします。



【お問い合わせ】

大阪YMCA本部事務局

TEL：06-6441-0894

E-mail：info@osakaymca.org

大阪YMCA
ホームページ



ボランティア
スクエア

